

かぞくのはなし きむら あきこ

第三話 一人暮らし

復活連載3回目は、ジェノグラムからは少し逸れてしまうのですが、転居について記してみようと思います。

このゴールデンウィーク、私は24年ぶりに札幌で暮らすことになりました。これまで、三人の子育てをしてきた町。たくさんの思い出があり、札幌に隣接しつつも、のどかな田園風景はお気に入りでした。けれども、豪雪地帯の冬を一人で越すには少々体力の限界を感じてしまい、転居を決断したのです。

思えば、2年半ほど前、長女、次女が相次いで就職や進学のために、家を巣立っていきました。その後、私の体に異変が起こったことで、事あるごとに、私の一人暮らしは、子ども達に心配されるようになりました。できる限り、子ども達には心配をかけずに生きていきたいと思っていたものの、いつまでも豪雪地帯で一人暮らしは難しいと幾度となく話題にあがりました。二人暮らしをしている娘たちと、もう一度三人で暮らそうか、という話題もありました。娘たちとの暮らしが再開すると、未来ある彼女たちに私の心配を背負わせてしまうような気がして、その選択には至りませんでした。

転居を決意した後の部屋探しには、多少の手間を感じました。住みたいと思える場所、予算に見合った物件を探す。ネット上には、様々な物件情報があるものの、自分の条件を入力していくと、選択肢は限られてしまいます。一度引っ越しをしたら、そう何度も転居を繰り返すわけにもいかないことを考えると、部屋探しも一苦労です。のらりくらりと物件探しをしていたところ、職場の仲間が、休み時間に私の条件にあった物件を探し当ててくれました。早速不動産会社に問い合わせ、内覧をして、私の新居はスムーズに決まりました。職場にも近く、子どもたちの住まいにも近い。比較的田舎の雰囲気をもった静かな地域で新たな生活は始まりました。

一人暮らしは、相手がないので喧嘩をすることはありません。子ども達は、

時々顔を見せてくれ、私ができないことを手伝ってくれますが、時々のことなので、素直に感謝できます。母親として腕を振るって、たくさんご飯を作ってもてなしたりもできます。本当は、一人暮らしなので、部屋数も必要ないのに、子ども達の帰ってくる場所としてのスペースも欲しくて、部屋も布団も確保しています。あと、10年後、20年後には、今よりももっと縮小した暮らし方になっているかもしれないなあと考えたりしますが、新しく始まったこの生活を今は楽しんでいます。

そうか・・・10年前、20年前は賑やかだったなあ、と思い出しました。

家族は増えたり、減ったり、移動したり・・・。転居動機、住まい場所の選択、暮らし方、そのそれぞれに、「家族」の理由があるものです。

おわり